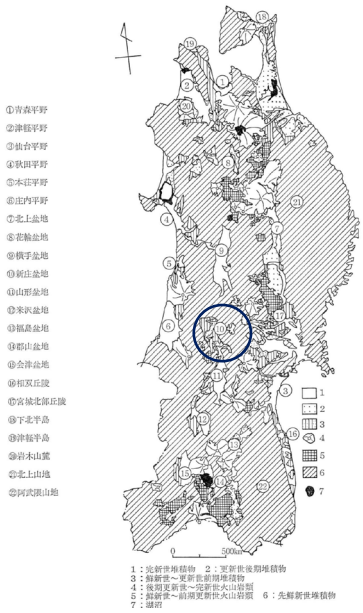
10.新庄盆地



地形・地質

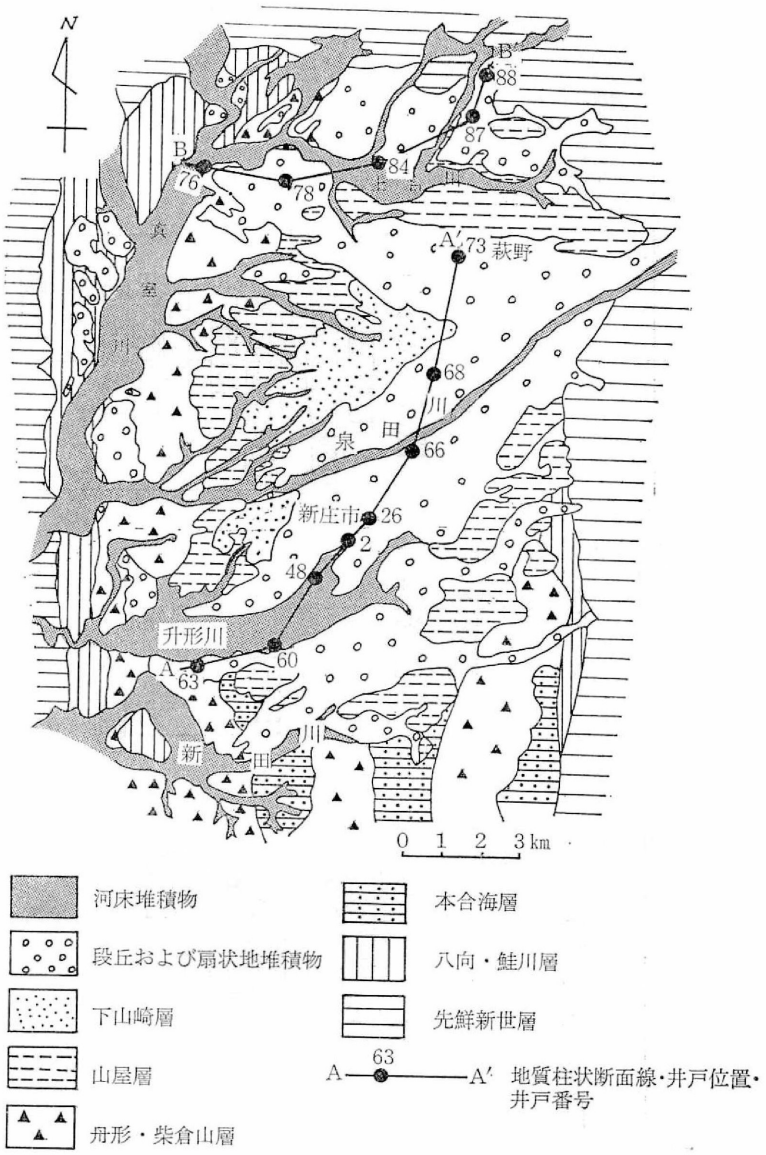
新庄盆地は山形県の北部に位置する内陸盆地の 1 つで、奥羽山脈と出羽丘陵の間に位置します。盆地は，鮮新世の地層からなるなだらかな丘陵地と，河岸段丘を主体としています。

新庄盆地の地層層序表

時代		地層名	層相	層厚（m）
第四紀	完新世	沖積層	氾濫原堆積物 扇状地堆積物	
	更新世	段丘堆積層	砂礫層	
		下山崎層	上部：凝灰質砂，粘土 下部：礫	10
		山屋層	砂礫（凝灰岩，粘土を含む） 最上部：礫	100
新第三紀	鮮新世	舟形層	上部：浮石凝灰角礫岩 下部：砂礫	100
		柴倉山層	凝灰質砂泥岩互層 基底：凝灰岩，凝灰質砂岩	120
		本合海層	中粒砂岩 夾炭砂質泥岩，砂岩互層	200
		八向層	中粒～粗粒砂岩 下部：泥質岩	250
		鮭川層	細粒～中粒砂岩 基底：シルト質岩	230
		先鮮新統		

地下水

礫，砂からなる扇状地性堆積物である沖，洪積層は，新庄盆地における最も主要な帯水層で、現在揚水されている地下水の大部分はこの帯水層からです。深井戸は，第三紀鮮新世の地層（舟形層・柴倉山層・本合海層・八向層・鮭川層）からも揚水しています。



新庄盆地の地質図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）